



令和5年度群馬県立高崎工業高等学校E T A会報 (2023年4月)

— E T Aは働きながら学ぶ生徒の活動を支援する団体です —

会員ならびに保護者の皆様へ

会長 吉田 恭平

皆さまには日頃より高崎工業高校定時制E T Aの活動に多大なご支援とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年度(令和4年度)は、数年続いていた感染症への対策が国内的に充実し、それに伴い学校での活動も活気を取り戻しつつある年度でした。事務局からの報告によれば生徒・職員が感染症対策をしながらの授業にも慣れ、徐々に平素の学校生活に戻ってきているとのことでした。新しい年度は本会の活動が再び活性化することを期待できることから、会の運営として喜ばしいかぎりです。

本会は例年、学校行事、成績優秀者の表彰支援および就業支援など定時制の生徒の活動の支援を幅広く行っておりますが、数年前から力を入れている就業への一歩が踏み出せない生徒を精神的にケアする「個別キャリアカウンセリング」をはじめとした外部の先生にお願いする活動が感染症の影響で十分ではありませんでした。つきましては本年度はそれらの復活も含め、生徒のより広範なアルバイト就業への支援を学校と連携してすすめて参ります。

保護者のみなさまにおかれましては、本会の活動に深いご関心とご理解を戴きまして誠にありがとうございます。来るP T A・E T A合同総会では、過去1年間の本会の活動をご報告いたします。

そして今後ともE T Aは活動内容を多くの方にご理解いただきながら活動に努めて参ります。

なお一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。



昨年度(令和4年度)E T A事業の概要

令和4年度事業は例年の事業が復活したため、年間の事業数が令和2～3年度と比較して大幅に復活または新規事業として実施されました。概要は以下のとおりです。

- (1) 定時制入学式(4月: 会長出席、ご挨拶)
- (2) P T A・E T A合同総会(6月: 吉田会長、城田副会長、藤井監事が出席)
- (3) 善行表彰(7月: 3学年2名が路上での人命救助に貢献) 副賞の提供
- (4) 社会貢献活動(9月学校外清掃、除草活動) 生徒・P T Aの活動(E T Aは飲料水提供)
- (5) 校内球技大会(12月開催)への賞品提供
- (6) 校内基礎学力試験における成績優秀者へE T Aとして副賞を提供
- (7) 全国高等学校定時制通信制体育大会(陸上競技、ソフトテニス)参加者激励金(延べ10名)
- (8) 生徒のインターンシップ3名参加(トヨタカローラ群馬、陸上自衛隊)保険加入への支援
- (9) 企業見学会(全学年対象・二社((株)根岸、(株)ヌカベを見学) E T Aは謝礼の支援
- (10) キャリア教育セミナー(高崎産業技術専門学校体験学習1、2年)支援
- (11) 褒章授与式にて卒業対象者にE T A会長賞、E T A特別会長賞を授与(各1名ずつ)
- (12) 卒業証書授与式(吉田会長、城田副会長出席)
- (13) 救急救命講習会参加者全員への飲料水提供(3月: 3学年生徒12名、引率者、消防署職員)
- (14) 卒業予定者表彰(2月: 4学年)会長賞1名、会長特別賞1名、4年間皆勤賞1名、他5名
- (15) 在校生表彰(3月: 1～3学年)1年皆勤4名、1年精勤6名、成績優秀者6名副賞提供



社会貢献活動(9月)



球技大会(12月)



救急救命講習会(3月)

救急救命講習会について（進路指導部行事）

本校生徒は在校時に1回以上「救急救命講習会」を受講します。これは大切な人や家族、その他急病人の命を守る知識とスキルの習得、そして心肺蘇生やAEDの使い方など応急手当について学びます。講師は高崎市等広域消防局のみなさんで、生徒は講習終了時に修了証の交付を受けます。

この講習により生徒は緊急時の対応意識を高める他、就職後の研修で救命講習が必要となる企業もあることから就職準備のための資格取得ができます。ETAではこのような学校独自の取り組みに対し、講習中の水分補給のための飲料水を提供することで学校行事の支援をしています。

ETA会長特別賞（卒業生対象の表彰）

ETAは成績優秀者として卒業する生徒1名に会長賞を授与する制度を設けて今年で3年目となりますが、今年度は会長賞の他にETA会長特別賞（1名）の授与がありました。対象生徒は満76歳（昭和22年生）の方で、4年間皆勤で本年3月に卒業、4月より群馬県立前橋産業専門校電気技術科への入学を実現した努力が特別に評価され表彰されることになりました。

本校ETA活動を紹介する新聞記事（上毛新聞、令和5年2月9日（木）地域面）

本校ETAの活動を紹介する記事が会長の写真とともに上毛新聞に大きく掲載されました。内容は本校の卒業生である吉田会長が本校定時制ETA会長として工業人を育成することで母校に恩返しをするというもので、あらためて本校のETA組織とその活動を宣伝していただくことができました。

高崎工業高ETA会長
吉田 恭平さん(76)
宇都宮市

今の自分があるのは高崎工業高があるから。母校へ恩返ししたいと、卒業生が勤める企業や協賛企業、学校が連携する組織「ETA」の会長を務める。講演や寄付といった活動を通じて「未来の工業人」の育成に尽力している。高崎市出身。おしが工場を経営していたことで工業に興味生まれ、同校に進学。全日製の機械科に入り、機械工学を学んだ。いったんは鉄骨メーカに就職するが辞め、同校の定時制に編入し、電子系の分野を深く学んだ。

就職した高崎市の設備工事会社では、宇都宮の営業所長まで務めた。1

90年に独立し、宇都宮市で配電盤などを製造する「ダイニチ」を立ち上げた。現在も同社顧問を務めるなど一貫してものづくり、工業分野に携わってきた。

高校生活を振り返ると、生徒と同じ目標に立ち、親身になってくれる先生が多く、自身の基礎をつくってくれたと感じている。通算6年通った計算になるが、「昼間も夜も出ていると愛着がある」と笑う。

1月には教育環境の充実に役立ててもらおうと、県教委に500万円を寄付した。「高崎工業高はこれからも、高崎の中核の学校であり続けてほしい」。今後も支援の輪が広がっていくことを願う。

好きな言葉は「なせば成る。なせば成らぬ何事も」。ものづくりを夢見る若い高校生には、地道な努力の大切さを伝えていきたいという。

（稲村真輝）

「親身になってくれる先生が多かった」と振り返る吉田さん

母校恩返し 工業人育成

（上毛新聞 令和5年2月9日（木）地域面より部分転載）

在校生の就業状況（進路指導部による調査結果：令和4年10月調査時のもの）

昨年度（令和4年度）は、4月、9月および3月に在校生の就業状況を調査しました。

学年	科	生徒数	アルバイト数	就業率 %
1 学年	工業技術科	12	6	50.0
2 学年	工業技術科	9	6	66.7
3 学年	工業技術科	13	7	53.8
4 学年	工業技術科	10	8	80.0
全 体		44	27	61.4

在校生の状況としては、学年が進むに従って就業率が上がりますがこれは例年の傾向と同様です。1学年の生徒については例年無理な就業を控え、まずは学校に定着する指導を優先しています。

卒業生の進路状況（令和5年3月31日現在）進路決定率100%

- 卒業生数 10名
- 就職内定者数 3名 信越化学工業（株）1名、（株）三和鍍金1名、他1社1名
- 進学決定者数 7名 埼玉工業大学1名、群馬県立産業技術専門校（高崎、前橋）他